

京都市立養正小学校 学校ニュース 学校評価 平成28年3月18日

校長 杉森 徳行

TEL791-7184 FAX791-7185

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/yousei-s/> E-mail:yousei-s@edu.city.kyoto.jp
学校教育目標 「子どもの良さや可能性を最大限に伸ばす養正教育の推進」

学校評価の結果について

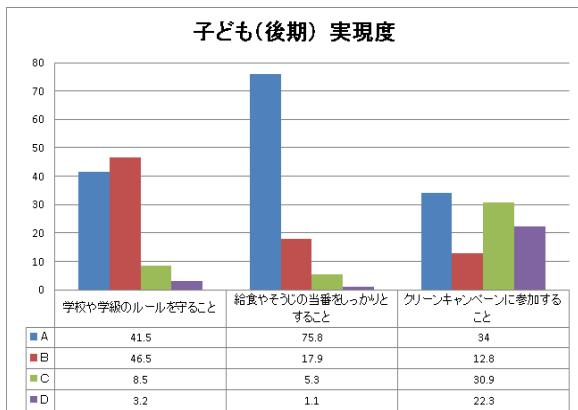
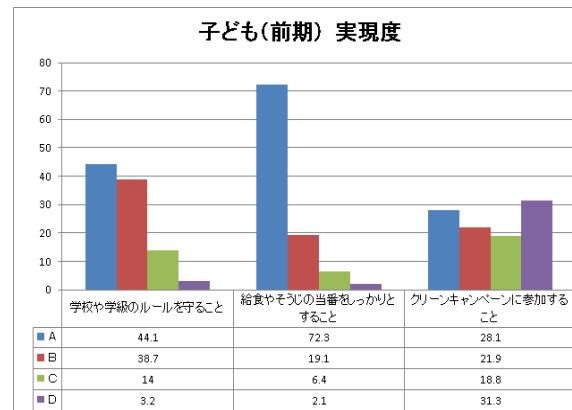
1月に、全校児童（低学年〈1, 2年〉、高学年〈3, 4, 5, 6年〉に分類）・保護者・教職員に学校評価のアンケートをしました。児童のアンケートは、学校での学習や約束のこと・生活習慣のことなど25項目、保護者・教職員には、子どもの様子・学校の様子など24項目について質問しました。アンケート結果を基に考察し、これまでの成果と課題についてお知らせします。

それぞれの項目について、重要度・実現度を回答してもらいました（低学年児童は、実現度のみ）。以下、グラフ等では、それぞれの質問に対する選択肢を次のとおりに示しています。

重要度 A 重要である B やや重要である C あまり重要でない D 重要でない

実現度 A よく出来ている B 大体出来ている C あまり出来ていない D 出来ていない E わからない

後期の学校評価のアンケートは、前期のものと同じ内容になっていますので、後期の内容を前期と比較しながら考察しました。



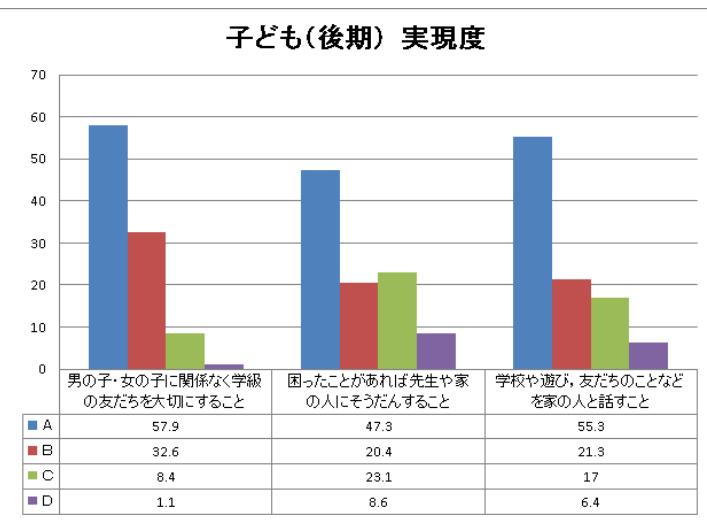
上のグラフは、子どもの規範意識に関する項目について実現度を示したものです。劇的な変化はみられないものの、子どもの規範意識は高まりつつあると考えています。「学校や学級のルールを守ること」の「よく出来ている」は44.1%（前期）から41.5%（後期）に下がっていますが、「出来ている」の項目も合わせると82.8%（前期）から88.3%（後期）とプラス回答を選択した子どもたちが増えています。この数値だけ見れば、特別に取り上げることはないかもしれません。しかし、例年、後期の学校評価を前期と比較すると、マイナス回答が増える傾向にあります。それには、次のようなことが考えられます。前期の子どもたちは、新しい学年になり運動会などの大きな行事を控え、様々な場面での目標をもち、意欲に満ち溢れていることが感じられます。しかし、後期になると、子どもたちは来年度の新しい環境への不安などから、少し落ち着きがなく

なることがあります。今年度多くの質問項目でマイナス回答がわずかではありますましたが増加していました。そのような中、この規範意識に関する質問項目では、プラス面の回答が増加傾向にあったことは、今年度の成果であると考えます。グラフに示すことはできませんが、重要度でも「学校や学級のルール・・・」を「重要である」とする回答率は89.5%（後期）と、86.6%（前期）からわずかに増加しています。また、規範意識が低いときには、給食や掃除などの当番活動が疎かになりがちですが、普段の子どもたちの様子からも廊下の床を雑巾がけするなど、熱心に掃除をする姿がみられました。アンケート結果からも、「給食やそうちの当番をしっかりとすること」は、実現度・重要度ともにプラス回答が増加傾向にありました。加えて、水曜日の朝に児童会を中心に取り組んでいる飛鳥井公園の掃除をするクリーンキャンペーンですが「クリーンキャンペーンにすすんで参加すること」が「よく出来ている」の回答率がわずかに上がり、「出来ていない」の回答率が下がりました。このことからも、子どもたちが、自分のことだけを優先するのではなく、「人のために・・・」「周りの人のことを考えて・・・」という意識が高まっていると言えます。

規範意識の高まりは、子どもたちが安心して学校生活を過ごしているからではないかと考えます。

右のグラフからも、そのことが言えます。「男の子・女の子に関係なく学級の友だちを大切にすること」は「よく出来ている」の回答率が52.6%（前期）から57.9%（後期）と上がりました。あわせて重要度も「重要である」「やや重要である」

の回答率を合わせると「98.9%」とほとんどの子どもたちが友だちを大切にすることを重要と考え、そして実行しようとしていることがわかります。多くの人が、自分が大切にされているとき、つまり気持ちの上で満たされているときに、周りの人にも気を配り、大切にできるのではないかでしょうか。子どもたちにも同じことが言えます。



今年度も、養正小学校では、授業を通して、子どもを育てることを目指して取り組んできました。各教科の授業では、問題の答えがわかるだけでなく、問題に対して、子どもたちが進んで考え、その考えを友だちに伝えることを大切にしてきました。「考えを伝える」という少し高いハーダルを目指すことで、挑戦することへの意欲がわき、達成できたときの満足感が得られます。また、考えを伝えた友だちからは「○○さんの考えってすばらしいね。」と認められることになります。このように学習を通して子ども同士のつながりを深め、お互いを尊重し合える態度を養いつつ、子どもたちがわかる授業が定着してきたのではないかと考えています。

学習面のアンケート結果に目を向けると、「授業に楽しく取り組むこと」「漢字の読み・書きや計算ができること」「授業中、話をしっかり聞くこと」は、「重要である」の回答率が前期に比べ

ると上がっています。特に「授業中、話をしっかりと聞く」は、85.6%（前期）から91.5%（後期）とプラス回答が上がっています。これは、実現度も同様の結果でプラスの回答率が上がったことに伴って、「あまり出来ていない」のマイナス回答が19.8%（前期）あったものが、7.4%（後期）と低くなっています。話を聞くことを重要と思っているだけでなく、実行できていることがわかります。「授業中、話を聞くこと」は、学習意欲の表れでもあります。今後も子どもたちが進んで友だちや先生の話を聞こうとするような、授業形態や授業展開の工夫をし、楽しい授業を心掛けたいと思います。

一方、学習面での課題は、「話を聞く」と「漢字の読み・書き、計算」以外、多くの項目で実現度「よく出来ている」の回答率が下がり、ほぼすべての項目で「出来ていない」の回答率が上がったことです。特に「授業中、すすんで発表する」は、「よく出来ている」36.1%（前期）から29%（後期）と下がり、「出来ていない」7.2%（前期）から14%（後期）と上りました。つまり、自分の考えを友だちに進んで発表している子どもが減り、発表する子が限られてきているのだと言えます。子どもたちは、学習に意欲をもってはいるものの、学年の後半には学習の難しさを感じているのではないかと考えます。また、学習を苦手とする子は、学習意欲が低下する傾向にあるとも考えられます。今年度も、算数では多くの学年で学級を二つに分けて行う少人数制の学習を取り入れるなど学習形態を工夫しましたが、形態以外にも学習を苦手とする子どもへの手立てや支援を工夫していく必要があると考えます。

以上のことから、学習意欲と規範意識が関係しながら、全体的に少しずつ高まっていることがわかります。

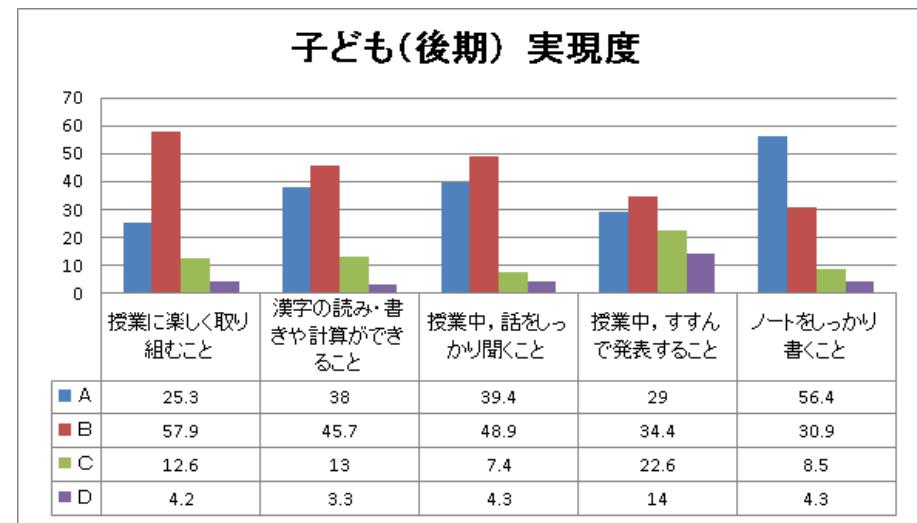
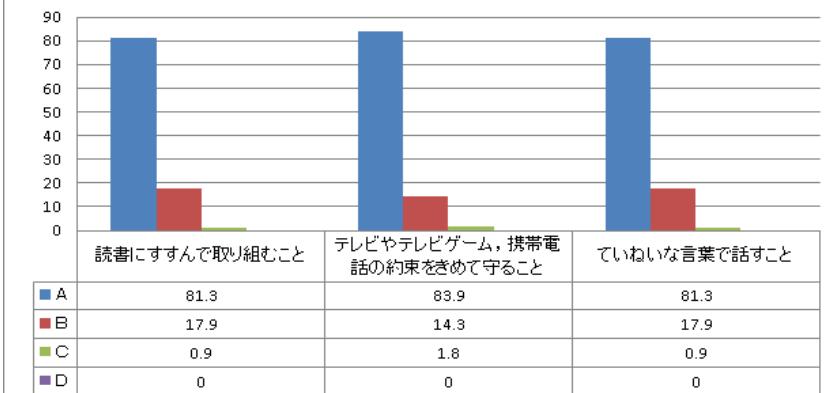
次に、保護者・教職員のアンケートをもとに学校の様子を考察すると、保護者・教職員ともに重要度が高い割に実現度が低かった項目は、子どもが「ていねいな言葉で話すこと」です。保護者では、重要度が「重要である」81.3%「やや重要である」17.9%に対して、実現度は「よく出来ている」8.3%「大体出来ている」38.9%「あまり出来ていない」43.5%「出来ていない」7.4%でした。教職員の結果も保護者に近い回答率でした。子どもたちは、「よく出来ている」「大体出来ている」の回答率を合わせると76.9%であり、大人との意識に違いがあると言えます。子どもたちは、授業中には丁寧な言葉遣いで話しているが、日常生活での、友だちや大人に対する言葉遣いは丁寧とは言い難いものです。中には、言葉遣いそのものよりも、集団の雰囲気によっては気持ちが高ぶり、聞いるだけでも嫌な気分になる言葉（子どもにはチクチク言葉と指導している）が

飛び交うこともあります。言葉遣いは、先ほど述べた安心感、規範意識とも大いに関わりがあります。集団の雰囲気によって左右されるのではなく、本当の自分を表現できる強さを身に付けていく必要があります。そういった点から考えると、子どもたちや集団のより良い姿を目指すには、まだまだ課題はあると言えます。

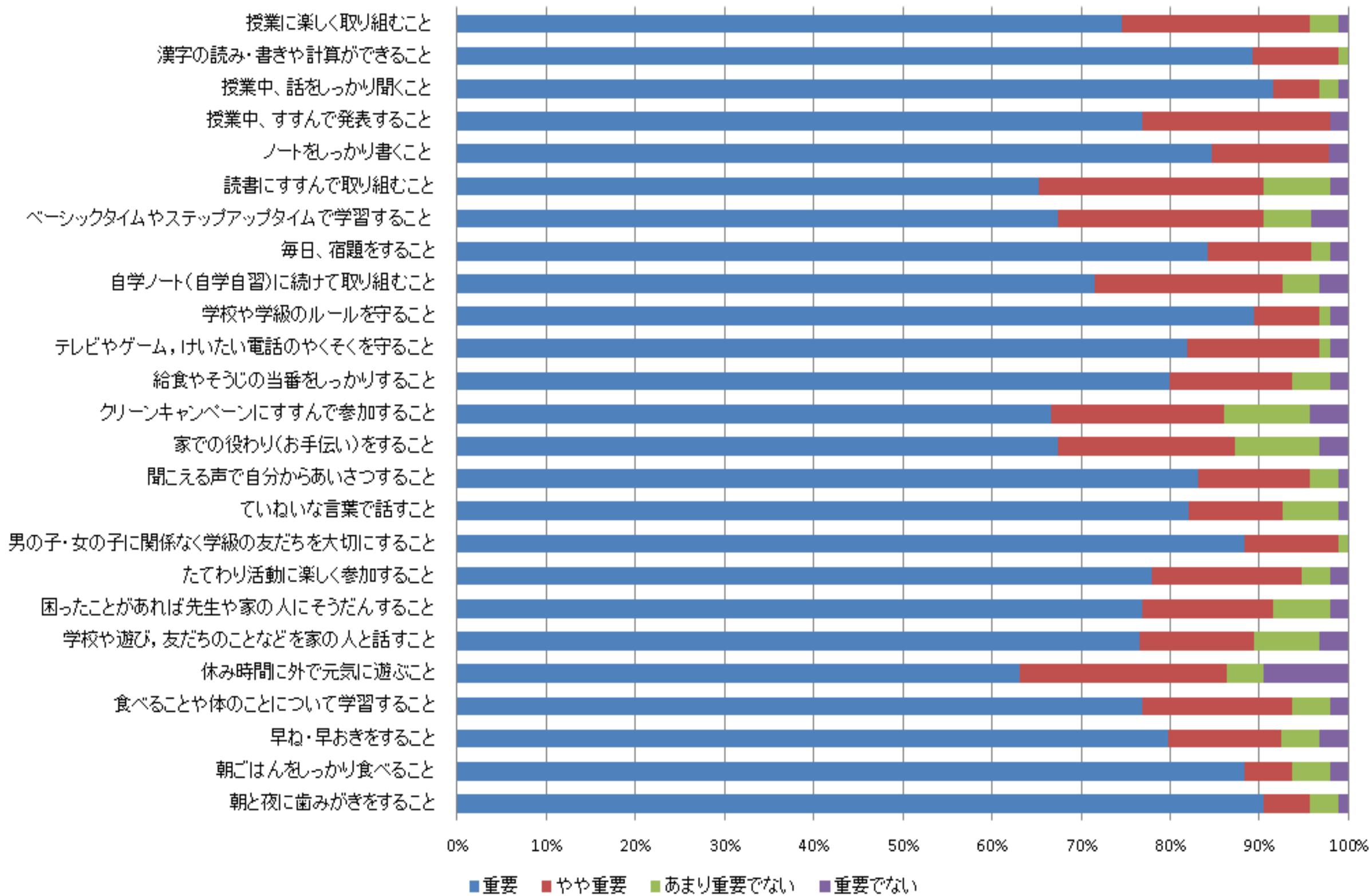
他にも、保護者的重要度が高く、実現度が低い項目は、「読書にすすんで取り組むこと」「テレビやテレビゲーム、携帯電話の約束をきめて守ること」でした。このことから、家庭では、子どもたちの多くが、本を読むことではなくテレビやテレビゲームで遊んでいることが想像できます。しかしながら、「読書にすすんで取り組むこと」について、教職員では「あまり出来ていない」の回答率が38.5%ではあるものの、「出来ている」「大体出来ている」の回答率は61.5%と、保護者の回答率48.1%（「出来ている」「大体出来ている」の合計）とは少し開きがあります。子どもたちが、テレビやテレビゲームがあれば、そちらに興味が向くのは当然のことかもしれません。子どもたちは、家とは環境が異なる学校では、保護者が思っているよりも本を読んでいると言えます。学校運営協議会でも、子どもの読書について話題となりました。1冊の本を必ず最後まで読まなければならない、理解しなければならないというよりも、本を手に取り開いてみることが大切で、その本との出会いが子どもに何か良い影響を与えるのではないかといった意見が出されました。また、子どもが進んで本と親しむために、選書会を行うとよいのではないかとの提案もありました。

最後に、食べることや体のことについての指導と生活習慣に関する項目を考察します。生活習慣が学校生活に大きく関わりがあることは明らかで、これまで朝ご飯を食べること、早寝早起きをすること、歯磨きをすることはたくさんの場でお話してきました。子どもたちにより良い生活習慣の定着を図るために、今年度は、養護教諭・栄養教諭に家庭科や保健の授業に入っもらい、健康診断や給食以外の時間にも子どもたちの指導に直接かかわってもらいました。子どもたちのアンケート結果では「食べることや体のことについて学習すること」の重要度の回答率は「重要である」71.1%（前期）から76.8%（後期）、実現度「よく出来ている」37.1%（前期）から54.3%（後期）とプラス回答が上りました。ただ、「早ね・早起きをすること」や「朝ご飯を食べること」は重要度・実現度ともに少し下がってしまいました。学習はできたけれど、それが実際の生活には生かせていない子がいると言えます。今後、指導方法や取組を改善しながら、継続して指導を進めていきたいと思います。

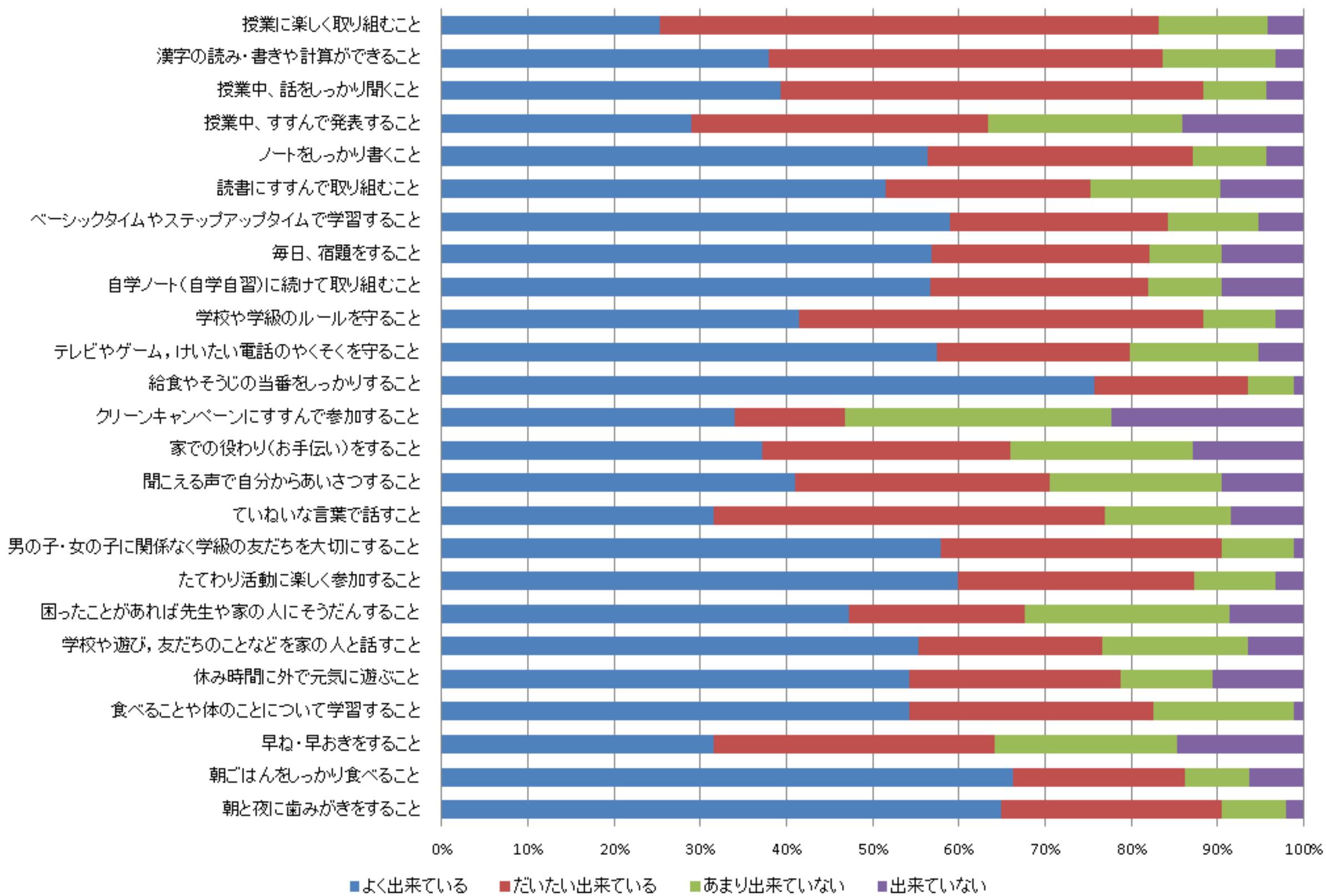
保護者(後期) 重要度



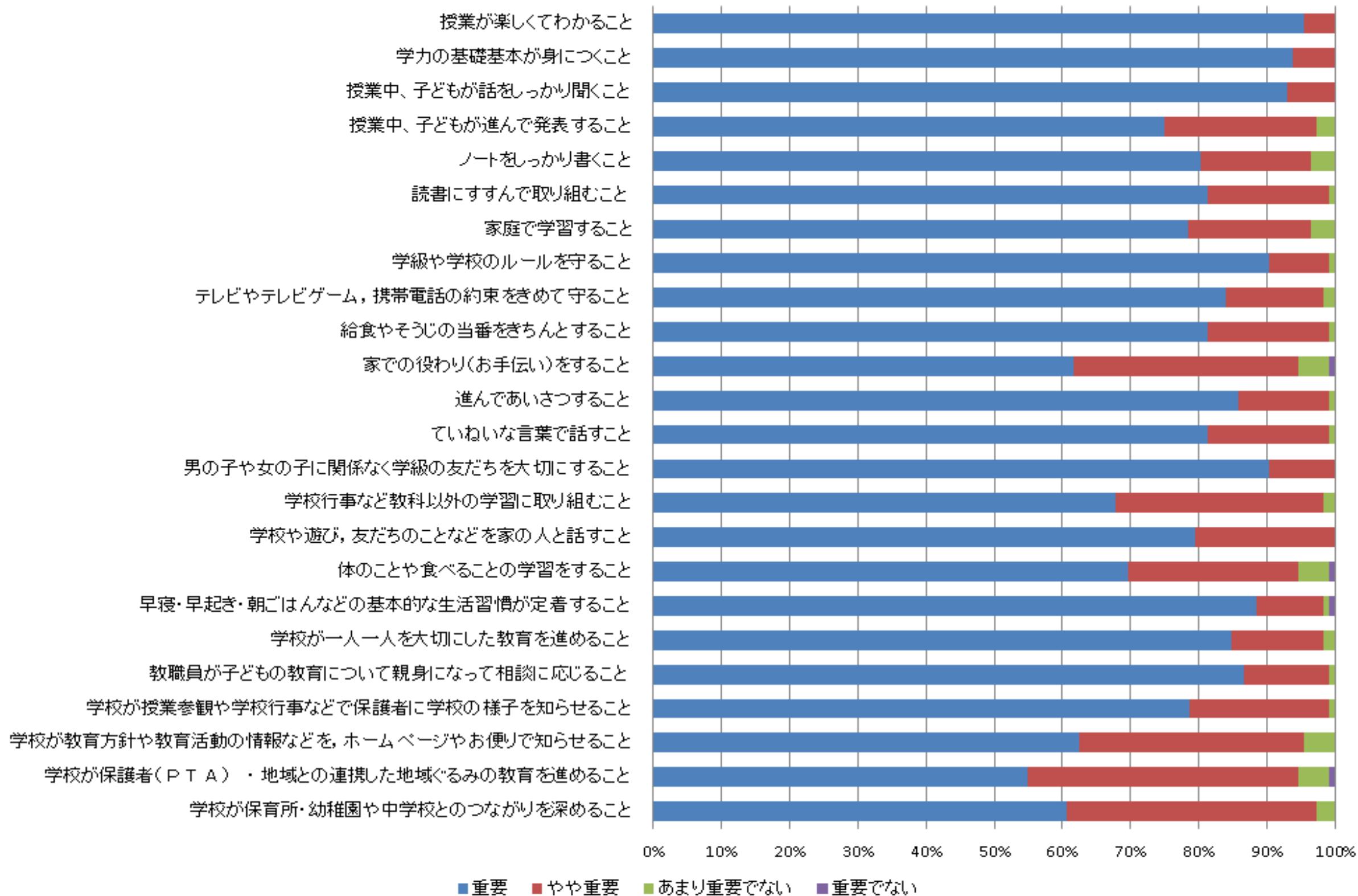
後期 子ども 重要度



後期 子ども 実現度



後期 保護者 重要度



後期 保護者 実現度

